
現代風土記・桃太郎伝説

天井海老抜き

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

現代風土記・桃太郎伝説

【Nコード】

N2054L

【作者名】

天井海老抜き

【あらすじ】

古代から伝わる伝説には何らかの因縁がある。その因縁は現代になっても未だ終わっていない。彼らが現れたのもその因縁の所為だろう。

吉備津神社の夜 (1) (前書き)

稚拙な文章なので読みづらいかもしれません。
パソコンで文章を書くのも初めてなので…。

吉備津神社の夜 (1)

一〇（癸巳前八八）九月甲午・九月丙戌朔甲午。
吉備津彦遣西道。

『日本書紀より』

一品聖靈吉備津宮、新宮本宮内の宮、隼人崎、北や南の神客人、良御崎は恐ろしや

『梁塵秘抄より』

桃太郎さん。桃太郎さん。お腰につけた黍団子。一つわたしにくださいな。

『童謡桃太郎より』

岡山県岡山市。

中国地方では広島市に次ぐ人口を持つ政令指定都市で、名前通り同県の県庁所在地である。

律令制時代は備前国と呼ばれ、備前長船や吉岡十文字など幾つもの優れた刀工を輩出している。江戸時代に入ると岡山藩になり、明治になるまで池田氏が統治していた。廃藩置県後に岡山県の県庁所在地になり、今に続いている。

この都市は瀬戸内海式気候の影響で、全国的に見ても降水量が非常に少ない。『晴れの国』と言う市のキャッチフレーズもここから来ている。

その岡山市の北区に、吉備津神社と言う歴史的な神社がある。

大和朝廷が地方平定の為に派遣した四道將軍の一人、大吉備津彦命を祀っている。岡山がまだ吉備国の一部だった時代では、吉備国の総鎮守でもあった。吉備国が分割された後は、備前国・備中国・備後国の一宮となり、各地で信仰を集めている。

その吉備津神社にある日、一人の奇妙な男が足を運んだ。

明るいオレンジのベストに紫と黒のTシャツを着て、黒色のカーゴパンツを穿き、迷彩柄の帽子を被っている。足には靴にも見える変なサンダルを履いていた。顔色は青白く人間の死体のそれとあまり変わらない。

男は本殿を訪れても参拝はせず、境内の中をずっとフラフラと歩き回っていた。他の参拝客はその男と目が会つと必ず自分から視線を逸らした。その目は、まるでカミナリの様にキラキラと輝いていて非常に不気味だった。

「君はそこで何をやっているのですか？」

境内をうろつき回るその異様な男に、堪りかねた神社のスタッフが声をかけた。男がキラキラとした目をスタッフに向ける。それだけでも十分に威圧感があった。

「……………」

男は何も答えない。ただキラキラと光る目でスタッフを睨んでいる。スタッフはあまりの怖さに胸が張り裂けそうだった。暴力の怖さとは別の、ホラーとしての怖さがそこにあった。

「知り合いを待つてるんだよ」

不意に男が喋り出した。その声は以外にも普通である。

「そ、その御知り合いはいつ頃に来られるのですか？」

「……………」

その質問に男がまた黙る。そして右手で顎をしゃくりだす。何かを言いたいらしいのだが、それを言葉に表現できないらしく首を捻っているようだ。

「後で来るとは思っただけどなあ」

暫くひまの沈黙の末に男がそう言った。どうやら知り合いはまだ来ないらしい。

「あの……非常に申し訳ないのですが、ここは神社なので待ち合わせ

せは遠慮してもらいたいのですが」

ここは神社である。飽くまでも宗教法人の私有地で、公共の場という訳では無い。そこで違反した行為をする事は法律で禁じられている。個人同士の待ち合わせが法律に違反していると言う訳ではないが、その行いによって神社側に迷惑が掛けるとなれば、到底許される行為では無い。この男がしている行為もそれに匹敵する。

「ふーん、そうなの」

男の忌々しそうな声が響く。その声に呼応するかのように、彼の目玉が更にギラギラと輝き始めた。その目の迫力は半端ではなく、嘗て日本中にブームを引き起こしたホラー映画の、テレビから出て来る女の悪霊とも張り合えるレベルである。

それは、ホラーに耐性の無いスタッフには耐えられない光景だった。「っ！」

この男は余りにも恐すぎる。ここまで来るともう同じ人間とは思えない。

「っ、次からは気を付けてくださいね！」

目の恐怖に耐えきれず、スタッフは急いで社務所へと逃げ出す。社務所へ逃げ込む最後まで、彼の背中では二つの目玉がギラギラと光り続けていた。それは余りにも異様な光景だった。

境内からスタッフが居なくなると、周りの参拝客も逃げるように男の傍から離れ始めていく。

「……何で逃げるのよ」

完全に孤立した場所で、男はそう小さく呟いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2054/>

現代風土記・桃太郎伝説

2010年10月9日07時04分発行